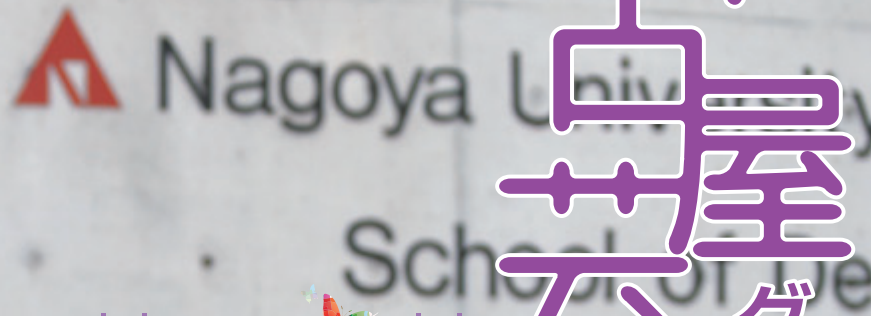


名古屋芸術大学グループ 通信

27
April
2014



Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OB
プロフェッショナルの仕事場
朝治正仁
NUA-Graduate student
大学院美術研究科 日本画2年
石川裕梨

News/Topics

Lecture [レクチャー]
特別講義や講演会など
■ 第19回 私の研究を語る

International exchange Activity [国際交流活動]
海外の学術姉妹提携校との交流活動など
■ 2013年度 フライントン大学賞の
入賞者が決定し、表彰式と祝賀会が行われました

ニュース&トピックス

音楽学部
■ 第41回卒業演奏会が行われました
■ 大学院音楽研究科
第16回修了演奏会が行われました
■ アンサンブル・フィルモニック・ヴァン
第15回定期演奏会が開催されました
■ 第36回 オペラ公演
「小さな魔笛」が上演されました
■ オリジナルミュージカル
「MYSTERIOUS DIVA～幻の歌姫は短くも
美しく燃えつきて～」が上演されました

人間発達学部
■ 「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が開催されました

美術学部・デザイン学部
■ 横山豊蘭「書道アート」公開授業
「春の書画会」が開催されました
■ 美術学部コース展とデザイン学部
レヴュー展が行われました
■ 第41回 卒業制作展
一作品講評会・卒論発表・映像作品上映会・記念講演会
■ 第18回大学院美術研究科・デザイン研究科
修了制作展が行われました

■ 名古屋芸術大学グループ
「たきこ幼児園」が開園しました

コラムNUA
「芸術とは何か」という問いをめぐって
人間発達学部教養部准教授 森田裕之

Master Artist

マスターアーティスト
ブルースをさかして
音楽学部教授
タニー・シュエッケンディック

Information

インフォメーション
■ 出版
■ 2014年度
オープンキャンパス日程
■ アート&デザインセンター
2014年度展覧会スケジュール



ビュッフェ形式で音楽が学べる

カリキュラムを自分でデザイン、

音楽学部
演奏学科・音楽文化創造学科
「音楽総合コース」

Feature



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学 大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究科
- 学部：音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部
- 名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
- 瀧子幼稚園 ■ たきこ幼児園
- 名古屋音楽学校(名古屋芸術大学 兼 サテライト)



ビュッフェ形式で音楽が学べる



カリキュラムを自分でデザイン、



音楽学部 演奏学科・音楽文化創造学科 「音楽総合コース」



ピアノが専門だけど声楽もやってみたい、演奏家を目指しているけど教職にも興味がある、演奏や歌うこともできる音楽療法士になりたい、自分のバンドでオリジナルの曲を演奏してライブハウスをいっぱいにしたい！ どの分野においても多様化が進んでいますが、音楽に関係する分野でも、従来では考えられなかった多くの選択肢が選べるようになってきました。こうした状況の中、一つのことに専心することも大事なことです。幅広いジャンルで、しかもそれぞれの専門的な知識を有する人材が、今後、必要になってくることが予想されます。こういった社会的ニーズと、自分の興味のある分野についてジャンルに縛られずに自由に学びたいという意欲の、それぞれに応えるものとして音楽学部では、演奏学科、音楽文化創造学科、それぞれに共通する「音楽総合コース」を設置しています。音楽総合コースは、音楽学部両学科のすべてのコース、カリキュラムから自由に選択して受講することが可能です。自分の目的や適性に合わせて、自由に選択することのできるまさに「バイキングレストラン」。1・2年次に音楽総合コースで幅広く学び、3年進級時に、さらに深く学ぶためにいずれかのコースに転コースすることも、そのまま音楽総合コースを継続することも可能で、学びの自由度は非常に高くなっています。1・2年次、3・4年次、それぞれ11コースの中からカリキュラムを組み合わせることができるので、121通りの組み合わせがあり、自分のやりたいことに合わせてカリキュラム編成が可能です。この仕組みを支えている、音楽総合コース運営委員会を担当する方々に、お話しを伺いました。



音楽総合コース

- 声楽コースカリキュラム
- ピアノコースカリキュラム
- 電子オルガンコースカリキュラム
- 弦管打コースカリキュラム
- 音楽教育コースカリキュラム
- 作曲コースカリキュラム
- サウンド・メディアコースカリキュラム
- 音楽療法コースカリキュラム
- ミュージカルコースカリキュラム
- アートマネジメントコースカリキュラム
- ジャズ・ポップスコースカリキュラム

全コースのカリキュラムから、自由に選択し受講。

継続

音楽総合コース

継続して音楽総合コースとして音楽を総合的に学ぶ。

変更

転コース

他のコースに絞り込み、専門性を高めた学びへ。

- 声楽コース
- ピアノコース
- 電子オルガンコース
- 弦管打コース
- 音楽教育コース
- 作曲コース
- サウンド・メディアコース
- 音楽療法コース
- ミュージカルコース
- アートマネジメントコース
- ジャズ・ポップスコース



自由に選択できるということを最重要視しています



学生部音楽学部主任
音楽総合コース運営委員長

中河 豊 教授

—実際にコースが始まって想定していたことに違いはありましたか？

当初、予想していたことと違う反応が出てきました。「お試し」ということで来た学生は当然いましたが、それ以上に、自由にカリキュラムが選択できる、特に4年間自由に取れることに魅力を感じ、幅広く学びたいと思っている学生たちが集まってきました。当初のスキルについての心配も杞憂にすぎませんでした。例えば、特定の楽器で、専科の学生よりもよくできる学生が音楽総合コースに入ってきたりすることもあります。非常に意欲的な学生がたくさん入ってきて、うれしい誤算でした。そういう形で音楽総合コースは動き始めました。

—最初は何名くらいで始まったのですか？

立ち上げた年は、10名ほどでした。その時は、音楽総合コースが全体に占める比率は、すごく少なかったですし、教員、あるいは学生たちも、音楽総合コースについて認識がなく、学生たちは萎縮ぎみであったように思います。その後、自由にいろいろなことに取り組めることが認知されてきて、非常に人気が出てきました。たくさんの学生が選択してくれるようになり、音楽総合コースが名古屋芸術大学音楽学部の大きな特色になっていると思います。

—音楽総合コースには意欲のある学生が多いとのことですが、その源になっていること、動力源はどんなことでしょうか？

自分が関心を有することに創造的に挑戦できることだと思います。典型的パターンを紹介します。文化創造学科では、すでにロック・バンドの経験がある学生が、ジャズ・ポップスコースでギター、ベース、ドラム、ヴォーカルなどのレッスンを受講し、サウンド・メディアコースでコンピュータを利用した作曲を学ぶ。これは自分のオリジナルの曲をつくり演奏するためです。演奏学科では、二つの楽器あるいは楽器と声楽を選択する学生がいます。また、音楽文化創造学科と演奏学科の二つの学科をまたいで教科を選択することは、音楽総合の学生たちが普通に行っていることです。自分だけのカリキュラムをつくるわけです。これが音楽総合コースの魅力です。

—演奏など、実技の積み重ねが必要なコースでも問題はありますか？

カリキュラムについては、当初、本当に自由にしました。ところがやっていくうち

にルールに弊害が出てきました。例えば4年生になってから1年生向けの授業を選択するようなことです。音楽のカリキュラムは基本的には積み上げで、年次が上がっていけば当然スキル・レベルも上がっていきます。ところが自由に選択できるものから4年になってから1年の教科を選択することが起きてしまいました。そのため現在では、3・4年生になったらあるコースの必須単位を必ず習得して卒業していくように改めました。3・4年では必ず何かのコースの専門的な部分を身につけるということにしたわけです。これがカリキュラム上の、これまでやってきた中で最大の改革だったと思います。それから、もう一つ、現在は基礎科目、音楽の一番基本になる部分についてしっかり教育しなければいけないことがはっきりしてきました。学生たちへの指導としては、基礎的な教科をしっかりと学ぶように、新入生オリエンテーションの段階から指導しています。その点も学生たちの反応はいいのかなと考えております。

—オリエンテーションはどんなふうにするのですか？

入学した時点で大学側がどのように学ぶのかを説明し、学生たちがカリキュラムをそれぞれ作成し、教科の選択をします。毎年、オリエンテーション合宿をやっていて、学生達は履修届案の作成までやります。その場に全コースの教員が出席してコースの授業内容をプレゼンし、それを聞いて学生が取りたいものを決めていく、そういうことをやります。これまでは、4月1日～2日で合宿に行きました。今年は、日程上の都合から合宿という形ではなく学内で同じようなことをやります。

オリエンテーションの場がすごく大事なものは、カリキュラムの作成もさることながら、そこで学生達が知り合えることですね。音楽総合コースの学生はいろんなコースに分かれて受講することになりますので、コースとしてまとまることなく、学生同士のつながりが薄くなっています。4月に集まって知り合いになるということは、学生生活に大事なことだと考えています。今年は、合宿に行けないですから、交流する場を食堂などで作ろうと思っています。在校生の音楽総合コースの学生にそのための企画を考えてもらっています。

—卒業後の進路はいかがでしょうか？

音楽総合コースだけの特殊性という点で

—音楽総合コースができた時のこと、その狙いを教えてください。

音楽を学びたいけれども、具体的に専門を決めるには経験が足りない、はじめにターゲットとして考えたのは、こうした学生たちでした。様々な音楽の領域で自分を試し、その中で可能性を発見してもらいたい、これが出発点でした。最初の2年間は、関心のある領域に自由にチャレンジし、その後ある特定のコースを選ぶ。演奏学科では、声楽、ピアノ、弦管打、電子オルガンの各コースのから、音楽文化創造学科では、作曲、サウンド・メディア、音楽教育、音楽療法、アートマネージメント、さらにパフォーマンス系のミュージカルとジャズ・ポップス、これらのコースから選択する、こうした構造でした。音楽総合コースの特徴として、できるだけ自由にすることを重視しました。最初からカリキュラムを作っておいてそれに学生を向かわせるのではなく、学生が自分で自由に教科を組み合わせてカリキュラムを作れるようにすること、これが基本的な考えです。その時に、教授会の中で議論がありました。音楽総合コースに入ってきた学生が、3年になって、特定のコースに転科する場合、その専門コースの授業についていけるのか、スキルが足りないのではないかという心配です。そういう経緯があり、音楽総合のまま卒業できる道筋も作っておくことになりました。基本的には、1・2年次でいろいろなことにチャレンジし、3年次で専門コースを選択する。ただし、4年間音楽総合コースでやっていくこともできるということにしました。

は、あまり目立ったことはないかと思えます。名古屋芸術大学音楽学部の就職の特徴として、教員採用での健闘があります。最新の資料では、昨年度は在学生6名、卒業生11名、合計18名（うち補欠合格1名）が教員採用試験に合格しました（一昨年度も合計で18名、うち補欠合格2名）。これに加えて、常勤講師になった卒業生も数人います。音楽学部ですから、音楽家になる卒業生は当然いますし、様々な形で音楽を

教える卒業生は多くいます。また、福祉関係や一般企業にも就職しています。全体として、昨年度の就職率は現時点での情報では90パーセントでした。



アートマネジメントコース

山田 純 教授

これほど徹底して総合コースを設置している大学はありません

ころは、たぶんないと思います。これが大きな特徴の一つです。音楽総合コースのルールとしては、まず2年間は何でも好きなものが食べられる、でも基本的には何でも食べられるのはそこまでしておこう、3年生になったら何か専門を見つけてそれに専念する、こういう考えがありました。ただ実際には、あまりの居心地の良さに、4年間ずっとそれを通したい学生たちが増えてきました。バイキング料理だけで終わってレストランを出て行きますが、それもいいかと考えるようになりました。そのことに魅力を感じて来てくれている学生たちがいます。その魅力を味わうために来てくれる学生たちがいるのだからそういう形でもいいのか、と思うようになりました。そういう意味では、教員側の妥協もないわけではないのですが、できるだけ3年になったら何か専門を選択して欲しいと言いつつ、進んできています。お腹はいっぱいになったけど、何を食べたかよくわからない。これが総合コースの、危険なところですが、学生たちは満腹になっただけでいいと思っているようです。それならそれでもいいじゃないか、というのが現況です。

意味においても有益だと思います。ある意味放っておくというか、音楽総合コースのまま卒業していくことでもいいと思えるのは、社会に出たときに、何か一つの事柄にしがみつ়くのではなく、幅広く見られる方が良いということがあるからです。社会のニーズとしては、多いのではないのでしょうか。社会に出た場合には、何かの専門ではなく幅広い領域で一通り何でもできる、徐々に、そういう音楽総合コースの有益さを社会の側が許容するようになってきていると感じています。

幅広く学ぶことと専門的に学ぶこと、音楽総合コースでは幅の広さばかりが強調されるように思いますがいかがでしょうか？

私としては、浅く広くもいいのですが、一つのことを専門的に掘り下げるというのも必要ではないかと思っています。どちらがいい悪いと言っているわけではないのですが、音楽総合コースでは本人が努力をしても、どうしても時間的に専門コースに及ばないところがあります。とことん突き詰めてはできません。広く浅く、深く狭く、両方ありなのですが、その判断をどこかで考えなければならないと思います。一芸に秀でる者は多芸に通ず、という言葉がありますが、一つのことを専門的に掘り下げたこそ、いろいろな分野を学んだことが生きてくるのではないかと思います。実際の講義では、自分のコースを取ってくれた学生に対して、専科であろうと総合コースであろうと、どの講義でも全く区別なしに同じように専門性の高い授業を行っています。専門コースと音楽総合コース、違いがあるのはカリキュラムだけです。バラエティーがありながらも同時に高い専門性を持つ授業に触れることができます。専門コースを選択する方が専門性を身につけるということでは効果的と言えますが、音楽総合コースでも学生の努力次第で十分な専門性が身につけられると思います。

音楽総合コースの魅力は、どんなことだとお考えですか？

中河先生と話しをすると出てきますが、音楽総合コースは考え方として、ホテルのバイキング料理、ビュッフェを食べるのに似ています。自分の好きなものが食べられることに加え、嫌いなものでもちょっとだけ食べてみる、これができる。少しかじってみて「ああ、やめた」これができる。このやめたができることも、音楽総合コースの魅力ではないでしょうか。でも、この自由さを保つこと、料理を用意する側はものすごく大変です。

この学生はフランス料理が好きなのだとか、この学生は中華料理だとか、こうしたことを把握しながらトータルの量を加減しながらやっていきます。これだけ用意したのに、全然食べてくれなかった、これは実際に起こり得ることです。ですから微妙な差配が大変です。だから、他の大学でも名前は違うかと思いますが同じような内容のコースを持っています。しかしながら、名古屋芸術大学ほど徹底してやっている

音楽文化創造学科に音楽総合コースがある意味については？

音楽文化創造学科というのは、人あるいは自分たちの心を豊かにするためにあるコースだと思っています。しかしながら、教養を修めるということだけでは教養主義に陥り、大学が行うべきことではないと考えます。社会の中に還元していくこと、社会とのつながりを持つことです。私たちの教育としては、学生たちに絶えず自分の心を磨き、そしてそれを社会に還元しなさい。人と人との間に入って、人と人をつなぐ役割を担いなさいと言っています。これが、音楽文化創造学科が考える、社会との結び付きを持ったうえで自らの心を耕してきなさいという教育方針です。社会とのつながりを考えた場合、音楽総合コースでいろいろな経験を積むことは、役割を担うという

？フレッシュマンキャンプ

入学後すぐに自分が目指す音楽活動にふさわしい学びは何なのかを、オリエンテーションで明確にします。各コースの先生と在学中の先輩が出席し、専門的なアドバイスをしながら進路について相談します。4年間を共に過ごす仲間と交流を深めることも目的の一つです。一緒に入学する学生と親睦を深め、音楽活動に不可欠な仲間をたくさん作ることができます。



音楽好きが生き生きと勉強ができる、それが音楽総合コース



電子オルガンコース

鷹野 雅史 准教授

—中河先生は「お試し」とおっしゃっていましたが、そういう学生もいますか？

音楽総合コースでやっぱり音楽を中心に据えたいという学生が、専攻を決めずに総合コースで入学し、試してみても大丈夫だと分かり改めて選択する、そういったパターンもあります。電子オルガンコースのカリキュラムに付いて行けるか心配していたのが、試してみてもから選択するということがですね。こういったことを学生たちは、割合気軽に自由に考えてくれています。自由な校風といますか、そういう気安さがありますね。電子オルガンの場合は、総合コースに入ってきて、実際に電子オルガンコースを選択し大丈夫だとわかれば3年生から転科する、そのパターンが多いです。

—電子オルガンの場合、ほかにはどんな選択をする学生が多いですか？

僕は、エレクトーン一筋という感じがですが、学生にはすごいのがいます。電子オルガンでいえば、ヤマハのエレクトーンが一番メジャーなのですが、このような環境を扱っているとハード面に興味を持っている人が多くいます。シンセサイザーを勉強したり、コンピューターがものすごく使えたり、作曲やビジュアルの方面にも関心があったり、自然な流れでそれを勉強したいと思う学生が多いです。そういう学生にとっては、音楽総合コースの方が、間違いなくカリキュラムが取りやすいですね。専科の僕のレッスンを受けながら、時間をつくってサウンド・メディアも勉強する。そういう学生の存在を頼もしく思っています。

—3・4年次に専門性を身につけるという方針ですが、うまくいっていますか？

中河委員長はバイキング料理だと言っていますが、あちこちのいろんな料理を食べてきて、卒業する段になってバイキングを食べてきた人たちがどんなふうにも社会から見られるのか気を付けないといけないよと、ある程度、専門を決めた方がいいよと、勧めてきました。しかしながら、最近では専攻を選択できる十分な力がありながら、総

合だけで卒業する学生が増えてきています。実際のところ、それはそれでいいのかなという気もしています。本当に幅広く学んで専門家になる人もいれば、一般の企業に就職する人もいます。どんな形で社会に出るのであれ、芸術にかかわっていくという意味においては音楽総合コースというのは、幅広く社会のニーズに対応することができ良いことなのかもしれません。

—オリエンテーションはどんな雰囲気でしょうか？

フレッシュマンキャンプで、缶詰めになってカリキュラムを作りますが、中には年間に取れる単位以上のカリキュラムを取ろうとして、わあっと書いてくるような向学心のある学生もいます（笑）。僕らからすればちょっと空回りしているという気もするのですが、逆にいえば、それくらい期待して入って来てくれているわけです。「頑張ればできます！」「いや、単位には上限があるんだよ」というやり取りがあって、現実的な履修届になるわけですが（笑）。面談の時にも、「1年で取れる単位に上限があることを止めていただけませんか」とうれしい文句が出ることもあります。「そうでなくっちゃ」と言いたいですね。僕を含め、音楽学部にいる先生も学生も、誰もが音楽好きです。それが素直に向学心に結び付き、音楽好きが生き生きと勉強ができる。それが、音楽総合コース。こういう言い方もできると思いますよ。大学というのは本来自分から能動的に学ぶところです。音楽総合コースというのは、本来的な意味で大学教育というものに近いのではないかとともに思います。

—音楽総合コースの学生のスキルを心配するような声があったと伺いました。実際に実技を担当され、いかがですか？

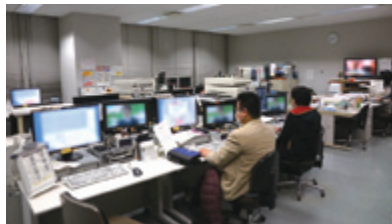
電子オルガンを選択してくるのですが、専科の学生よりも余程できる学生もいます。専科としても十分できるんですがずっと総合コースにいる、そんな学生もいます。学生に、どうしてうちの大学を選んだのか理由を尋ねてみると「自由な校風がいい」と言います。専門性をなくしてしまう音楽総合コースというものは、音大としてどうなのかという問題もありますが、学生側から見れば、好きな音楽のことをどんな領域であっても自由に学ぶことができる、超高級な遊び場みたいに見えるのではないのでしょうか。専科の新入生はコースによってカリキュラムは基本的に決まっています。しかし、総合コースの新入生はカリキュラムの自由度を主体的に活かして自ら学ぶ姿勢を前面に押し出してくる学生がいます。総合コースをなめつくすようにして、この環境を徹底的に活用していくモチベーションの高い積極的な学生が多いと思いますよ。



Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



CBC放送センター内、CGセンター
文字情報やCGはここで作成される。



株式会社 CBCクリエイションHPより
CGデザイン部門 紹介映像

<主な担当番組>

- イッポウ ● ゴゴスマ ● 花咲かタイムズ ● サンデードラゴンズ ● スーパーグランパスTV ● スジナシ ● ノブナガ 他



プロフェッショナルの仕事場



Find us on
Facebook

YouTubeにアップされているDJやクラブの映像は、頼まれて制作したもの。趣味でやっているものさそうだが、見事な出来映え。



Vol.55

NUA-OB

朝治正仁

(あさじ まさひと)
株式会社 CBCクリエイション
技術センター
CGデザイン部長兼代理
チーフ・デザイナー

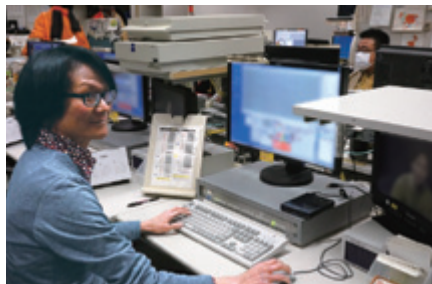


1973年 愛知県生まれ
1997年 美術学部デザイン学科卒業
1997年 株式会社 CBCクリエイション入社

テレビのバラエティ番組などで表示されるテロップ、情報番組で表示される地図、ものごとをまとめたフリップ、ニュースで事件のあらましを伝えるCG映像など、これらを制作するのが、朝治さんの勤めている会社である。CBCテレビで制作される番組のテロップやCGを一手に引き受ける。放送という社会の公器に携わる仕事。当然ながら、時間にも、その内容にも、厳しい目が向けられる過酷な現場である。普段、仕事で詰めているCBC放送センターも見学させていただいたが、仕事の現場の生々しさがひしひしと伝わってくる。



制作物をオンエア時間に必ず間に合わせなければならない。しかもそれが、日々、途切れることなく続く。ニュース番組の3D映像を担当する場合、毎朝9:30から報道の会議で、その日の夕方放送されるニュースで必要なCGが決まる。そのタイミングから3Dを作り始めて、夕方の4時くらいまでには仕上げる。当然時間に縛られるため、それほど手の込んだものは作ることができない。重要なのはその内容である。間違いがあってはならない。「説明用のCGだと、事象をすべて理解していないと作れません。担当の記者と話し合って原稿を見せてもらって、どういう状態でその事件が起きたのかきちんと裏をとってもらって作っていきます。伝える内容を具体的に理解していないと作れないので、しっかりと把握するようにしています。その場で、図を描いて確認しますが、報道なので思い違いやちょっとした間違いでもあれば



最近の若い人たちは、皆、大人しい印象があります。仕事がもらえるまで待っているような……。若いうちは、もっとガツガツ来てくれてもいいのになあと感じます。

大変なことになりますね」

現在は、10名の部員と契約社員の6名で、仕事を回しているとのこと。勤務時間は、変則的な、遅番や泊まりの勤務もあるという。「どうしても番組製作が重なる忙しい時期は、深夜までかかってしまいますね」



学生時代に学んできたポスターや広告デザインは、現職のCGには直接的には関係は薄いかもしれないが、バランスや色の使い方など、画面に映る部分をトータルにコントロールするという観点では大いに役立つという。入社した当時から、ビジュアルを専門的に学んできたことが自分にとっては大きなアドバンテージとなったと話す。そして、もう一つ、仕事をする上で大切なことを教えてくれた。それはコミュニケーション能力についてである。

「学生時代、課題で制作してプレゼンを行いました。あれは重要だな、とつくづく思います。自分の作ったものをディレクターにどうやってOKを出させるか、突っ込まれたときにどうやって答えるか、そういったこと

が本当に重要です。どれだけいいものを作っても、人にうまく伝えられないようではやっていけないです」現場の現実として、特に時間の制約の厳しい放送業界にとって、コミュニケーション能力にたけていることは、場合によっては実力以上に重要視されるという。いくら作るものが良くてもうまく伝えられなければ、どうしても目に止まらないことになる。「良いものを作っていれば必ず評価されると思いたいのですが、実際の仕事の間ではそうではなく、手を挙げた者が勝ち、そんな感じが残念ながらあります」



厳しい世界で仕事を続けていけるその根底にあるものは何かと問えば、「自分の作ったものがテレビに出る。オンエアされるということじゃないでしょうか」という。「スーパーインポーズに関して言えば、本当に1、2秒という一瞬。地図にしたって、その地図について説明している5秒程度ですよね。そんな一瞬間ですけど自分の作ったものが電波に載ってオンエアされる。そういうところが、自分にとっては大きな価値なんです」放送と単なる映像作品では、制作者としての意識が違う。放送に載せるためには多くの人に関わり、幾重にもチェックが行われ、それをクリアしなければならない。「僕には、人と関わりながら作っていきいたいという思いがあります。人と関わってやってきた方が、自分らしさが出るのかなと思っています」プロの仕事を支えているのは初心ともいえるべき純粋さといえそうだ。

不器用なんですけど……



Vol.56
NUA-Graduate student
石川裕梨
(いしかわ ゆり)
大学院美術研究科
日本画2年

ドラマチックな構図が印象的。モチーフは鳥が多いの？

鳥に限らず動物の絵を中心に描いています。尾長鶏は、動物園で見っていたのですが、雌を獲得するためにすざい喧嘩をしていた雄同士が、餌を食べるときになると、一緒に餌箱から食べていて、それを毎日繰り返しているんです。そのことを回っているような感じで描いてみました。尾長鶏の喧嘩は、いつも勝つのは羽根の綺麗な方で、必ず綺麗な方が勝つみたいなんです。羽根の美しさに惹かれたんですけど、飛ぶための羽根よりも飛べない羽根の方が制作してしっくりくるんですよ。いろんなものを描けるようになりたいなと思います。

観察は動物園で？ 東山？

そうですね。もう顔なじみになってしまっています。もう覚えられてしまって、ちょっと行きづらいです(笑)。オランウータンもぱっと見て「この子」と閃いて描きました。

観察にかかる時間はどれくらい？ パッと見ですぐ描けるものなの？

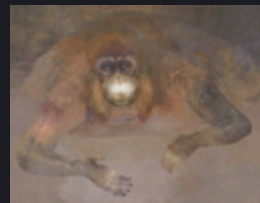
不器用なのですごく時間がかかります。モチーフが決まるまでも、制作に入ってから大変ですよ。見に行くだけでも丸々1日かけてです。オランウータンの前にエミューを描いたのですが、形を取るまで1か月ぐらいかかっています。私にとって転機になった作品なんですけど、すごく苦労しました。産みの苦しみだったんだと思います。でもそれを乗り越えたら何かすごく楽になって、今は1、2週間で写生はできるようになりました。それでも、形が体に入るまで時間がかかりますねえ。動物園の飼育員さんに不審者だと思われるような気がして行きづらいんです。とにかく、



第48回日春展入選「紡く」



第45回日展入選「廻る」



第44回日展入選「兆し」

受賞歴

- 平成23年 佐藤太清賞公募美術展 入選
- 平成24年 豊田市民美術展 大賞
- 平成24年 日展 初入選
- 平成25年 名古屋芸術大学 卒業制作展 優秀作品賞
- 平成25年 日春展 初入選
- 平成25年 豊田市文化振興財団 文化新人賞
- 平成25年 臥龍桜日本画大賞展 入選
- 平成25年 日展 入選
- 平成26年 (公財)としん育英財団 助成対象者



スケッチブックは学校のロゴが入ったマルマン製のもの。「これが一番描きやすいです」

不器用なんですよ。

日本画に進もうと思った理由は？

芸大に入ったきっかけは、絵が描きたかったからなんですけど、最初はデザインの方に行こうと思っていました。デザインの方が就職あるしとか、そんな簡単な気持ちだったんです。高校時代は、デザイン学部の受験対策のため、アクリル絵の具を使った色面構成とかをやっていると、私のはどうしてもにじみが出ちゃってぶよぶよになっちゃうんです。「にじみを活かすのだったら透明水彩に行ったらいいんじゃない」と先生に言われたのがきっかけで日本画を始めたんです。な

んか不器用なのが転じて、みたいなの、そんな感じですよ。なんか、本当、申し訳なくて、すみません(笑)。

ぶよぶよになって良かったよね(笑)？

はい、今はそう思います。

将来は？

美術の先生になりたいと教職課程も取っているのですが、別のお話もいただいていてこれからまだ、考えなきゃいけないんです。うれしい悩みなんですけどね。どちらにしても絵を続けていくことを考えて決めようと思います。日展には出し続けていきたいですし、この1年で小品も描けるようになりたいし、展示の経験も増やしたいし……。先生には、まだ大作に集中しなさいといわれていて、地固めも必要なんですけどね。



「動物園の人に見せてあげなよ、絶対喜ぶと思うよ」「そうですかね。もう少しBIGIになってから行きます!」

Lecture

【レクチャー】

特別講義や講演会など

第19回 私の研究を語る

研究
テーマ

ドイツの
トーンマイスター教育と
クラシック音楽の
録音事情について

日時

2014年2月19日(木)
17:30-19:00

会場

東キャンパス
1号館701教室

発表者

音楽学部
音楽文化創造学科
講師 長江和哉

主幹

全学図書委員会

2012年4月より1年間、ベルリンに滞在して行ったトーンマイスター以上在籍し、音楽録音基礎やスタジオ技術基礎などの10に区分される専門学群を修め、計240単位の取得が必要です。また、週1時間のレッスンが行われる専科の演奏と必修ピアノに73単位と、もっとも多くの単位が割り当てられます。特色としては、クラシック音楽の録音を基本としながらも、ポピュラー音楽や映像分野の録音も選択できるようになっています。ただし、多くの学生がクラシック音楽の録音を専門としています。

ドイツでは、1949年・昭和24年から音楽大学で、レコーディングプロデューサーとバランスエンジニアの両方の能力を兼ね備えた、「トーンマイスター」を養成するコースが設けられてきました。Tonはドイツ語で音、meisterはドイツの資格制度の意味であり、トーンマイスター (Tonmeister) とは、録音の専門資格です。英語では、サウンドエンジニア (sound engineer) に当たりますが、技術的な部分のみでなく、音楽を録音する際の芸術的な部分と技術的な部分の両方の役割を果たしています。そのため、音楽的な理解が必要で、創造的な作業ができるよう、音楽を聞き分ける能力と技術的な知識が必要です。その仕事は、音楽や映像メディアの録音制作・コンサートの音響などであり、演奏家と聴き手をつなぐのが役割です。トーンマイスターの誕生は、第二次大戦後、大衆がラジオやレコードといった「新しいメディアを通じて音楽を聴く」という機会が急速に浸透し、技術的

な知識と音楽的な知識・センスを持った音の専門家が必要となったことがそのきっかけとなりました。

私が聴講したベルリン芸術大学トーンマイスターコースの入学条件には、ドイツの大学に入るための大学入学資格が必要で、外国人の場合はドイツ語も必須。C2検定資格、芸術的な素質と才能、聴力 (100Hz~10kHzまでの聴力を証明する医師が発行する証明書) が必要です。可聴周波数の広域の上限が年齢とともに下がるため、入学時の年齢が28歳までと明示されています。入学試験は、バチェラー (学士) の場合、7つの試験が2日間にわたり行われ、試験の内容は、聴音筆記試験や和声学の理論に基づいた筆記試験、専科楽器の演奏と必修ピアノとなっており、非常に高度な内容となっています。

次にカリキュラムですが、バチェラーを取得するには8ゼメスター以上在籍し、音楽録音基礎やスタジオ技術基礎などの10に区分される専門学群を修め、計240単位の取得が必要です。また、週1時間のレッスンが行われる専科の演奏と必修ピアノに73単位と、もっとも多くの単位が割り当てられます。特色としては、クラシック音楽の録音を基本としながらも、ポピュラー音楽や映像分野の録音も選択できるようになっています。ただし、多くの学生がクラシック音楽の録音を専門としています。

一方、マスター (修士) の取得には2ゼメスター以上在籍し、音楽録音や録音芸術の実践など4つに区分される専門学群を修め、計60単位が必要です。こちらの特色は、クラシック音楽・ポピュラー音楽・映像音楽のいずれかから一つを選択します。同時にそれが卒業試験の課題内容となります。

最後に卒業試験ですが、クラシック音楽を専攻している場合、ベルリン芸術大学オーケストラによる交響曲の演奏を実際にセッション録音します。受験学生は二人一組で、音楽監督とバランスエンジニアを交互に担当し、音楽的な助言と適切な録音技術でオーケストラ録音が行えるかを問うものでした。

以上、ベルリン芸術大学トーンマイスターコースの入試試験、カリキュラム、卒業試験を詳細に見て、その特徴としては以下があげられ、今後の音楽大学における録音の教育に日本の現状にあわせながら、取り入れていくことが必要であると思います。



1 サウンドメディアコース長江和哉講師 (4月より准教授)

- 2 ベルリン芸術大学
- 3 4 ベルリン芸術大学 トーンマイスターコースの授業風景
- 5 ベルリンフィルハーモニーでのラジオ中継の様子
- 6 名古屋芸術大学での トーンマイスターワークショップの様子



2



3



4



5



6

1. 特徴として以下が挙げられ、これらが音楽家から信頼される要素になります。
 - 演奏家と同等の高い演奏能力の習得
 - 演奏家と同等以上の音を聴き分ける能力の訓練
 - 芸術性を養うための音楽基礎理論や音楽学の習得
2. 各科目内容が明確で、最終的には録音芸術を研究していく内容を持つ。
3. 従って、その内容に沿って学生自身が何を勉強していくかが明瞭である。
4. 卒業試験のテーマが「いかにして芸術的な録音を行っているか」である。

続いて、トーンマイスターの実際の録音についての研究です。CDプロダクションや放送中継におけるトーンマイスターの仕事の実態を調査するため、約30件の録音・中継のセッションに加わり、見学する機会を得られました。その中でも、ドイツ公共放送ドイツラントラディオ・クルトゥアーによるベルリン・フィルハーモニーのラジオ中継・録音をご紹介します。

こちらは2012年4月15日に行われたコンサートで、収録は1963年に竣工した旧西ベルリン側にあるコンサートホールで行われました。大ホールの最上階に録音・中継コントロールルームがあり、小ホール、映像スタジオ、中継車スペースまで、音声信号が簡単に転送できるようになっていました。また、天井より電動吊りマ

イクシステムが30個設置されており、省力化をしながら、音質や音楽性を最優先にした設備が整っています。スタッフは2人のトーンマイスターと2人のトーンエンジニアで構成されており、役割分担して助け合いながら中継を行います。本番中は、音楽監督のトーンマイスターがスコアを先読みし、客観的にミキシングを担当するトーンマイスターにバランスの指示を出して行っていました。

最後に、私が専任講師として担当する名古屋芸術大学のサウンドメディアコースには、音楽を制作する学生や私のように録音したりする学生、コンサートのPAを目指す学生たちが在籍し、勉強に励んでいます。音楽大学で録音・音響を学ぶには、音楽家として音楽に接することが最も重要で、そのためには演奏家と同じように演奏を勉強し、さらに理論や音楽学を学び、また、曲を作ったりアレンジをしながら音楽の構造を理解していくことが必要です。これは、ドイツでトーンマイスターになるための勉強やその仕事を実際に見て、私自身が感じたことです。技術的な側面は卒業後でも十分に勉強していけるので、大学では音楽の基本を学ばなければいけません。サウンドメディアコースでは、2年に一度、ドイツからトーンマイスターを招き、ワークショップを行っています。学生たちはその録音に触れ、どのようなことを考えていかなければならないかを実践しています。これからも、どうぞよろしくお願いたします。

International exchange Activity

【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との
交流活動など

2013年度 ブライトン大学賞の 入賞者が決定し、表彰式と 祝賀会が行われました

2013年度ブライトン大学賞の入賞者が決定し、その表彰式と祝賀会が2月28日(金)、名古屋市中区栄4丁目の名古屋東急ホテルで行われ、グランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名と佳作6名の合計10名の優秀者が表彰されました。

「ブライトン大学賞」は、本学と姉妹校提携を結んでいる英国のブライトン大学が、本学の卒業制

作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、毎年、相互の交流を深めています。

本年度は、ブライトン大学からProf. Bruce Brown(ブライトン大学副総長)とProf. Anne Boddington(芸術学部学部長)の両氏と、河野英一教授(本学の名誉教授)が来日され、卒業制作展の行われた3会場(本学西キャンパス、名古屋市民ギャラリー矢田、愛知県美術館)を廻って作品を審査し、受賞者が決定されました。

表彰式では、冒頭、本学竹本学長から歓迎の挨拶があり、続いて、Prof. Bruce Brown副総長からブライトン大学を代表してお礼の挨拶と、両大学の交流がこれまで永きにわたって続いてきたことや、今後益々発展することを祈念したスピーチがありました。

その後、今回審査した学生達の作品についての講評が行われ、両氏から、受賞者一人ひとりに賞金と表彰状が手渡されました。

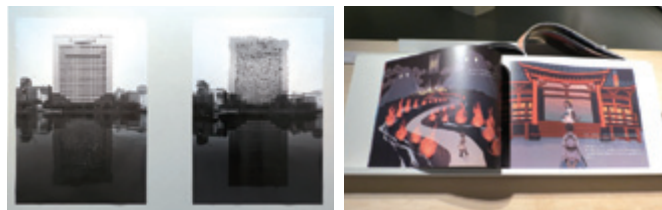
グランプリを受賞した林淳一郎さんの「Theoria」(版画)に対しては、「視覚、反映、構成、そして写真媒体すべてがしっかりと調べあげられ、被写体の建物が直交幾何学的に、また厳密に変形され、分解され、モダンな建物と都市景観を白黒写真により見事に作り上げたシリーズ作品です。」また、優秀賞を受賞した羽根田穂乃さんの

「日本神話絵本」(メディア・デザイン)については、「伝統的な視覚言語と現代技術をうまく融合させ、一連の神話の物語を、非常に的確に視覚的再解釈していた作品です。」との講評がありました。

以下、奨励賞2名と佳作6名の受賞者全員に表彰状と賞金が授与され、表彰式は予定どおり終了しました。

その後、名古屋芸術大学後援会会長の挨拶と乾杯で祝賀会が行われました。2013年度の受賞者は以下の方々です。

2013年度ブライトン大学賞受賞者(敬称略)



グランプリ 林淳一郎(版画コース)
「Theoria」

優秀賞 羽根田穂乃(メディア・デザインコース)
「日本神話絵本」

賞	コース	受賞者氏名	作品名
奨励賞	メタル&ジュエリー・デザイン	佐藤 義之	歩くたからもの
	洋画1	吉村千賀子	鶏様
佳作	彫塑	黒住 優里	優しい場所
	日本画	石川 幸奈	ふたりひとつ
	メタル&ジュエリー・デザイン	石川 美帆	ニフトリ
	メディア・コミュニケーション	中川 朋子	①伊勢神宮解説ブック「伊勢神宮とことんおまわり」 ②地域開発デザイン「伊勢に未来を伝える」パッケージ・デザイン
ヴィジュアル・デザイン	高田 若葉	銭湯部 / 「銭湯な日常」ポスター	
	スペース・デザイン	野寺 理恵	「住まいで商う」養老町活性化計画



1 受賞者を発表するProf. Bruce Brown(ブライトン大学副総長:右)とProf. Anne Boddington(芸術学部学部長:左)の両氏
2 グランプリの賞状を受け取った林淳一郎さん(右)

News & ニュース&トピックス Topics

音楽学部 第41回卒業演奏会が 行われました

2014年2月28日(金)、名古屋市中区伏見の三井住友海上しらかわホールで、本学音楽学部の第41回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとっては大学4年間の学業の締めくくりとなる最後の発表の場であり、音

楽学部にとっては、各コースの教育成果を公表する特別な演奏会といえます。本年度は、この春の卒業試験で優秀な成績を取った学生21名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台上に臨みました。

プログラムは、序盤が電子オルガンからスタートしてユーフォニアム、バリトンと続き、フルートまで7名が演奏。休憩を挟んで中盤は、ソプラノ独唱からピアノ、トランペットが演奏され、最後はソプラノまでやはり7名が出演。休憩の後、終盤もヴァイオリンからピアノまで7名が出演しました。

指導教員をはじめ家族や友人が見守る中、日頃の練習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披



1 ピアノ独奏
2 フルート独奏
3 ソプラノ独唱
4 サクソフォン独奏

露してくれました。また、優秀卒業論文が公表され、

音楽文化創造学科音楽教育コースの優秀者が発表されました。

音楽学部 大学院音楽研究科 第16回修了演奏会が 行われました

2014年3月6日(木)、本学大学院音楽研究科の第16回修了演奏会が、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで開催されました。

大学院修了演奏会は、学部卒業

までの教育に加え、より専門性の高い能力、知識を持って研究し、能動的に自ら進んでテーマに取り組んだ成果の発表の場です。

演奏形態は、今春修士課程を修了する院生がオーケストラ/コレギウム・アカデミカと共演する構成で、独奏・独唱とオーケストラが織りなす色彩豊かな演奏が特色となっています。



コレギウム・アカデミカは本学大学院の演奏研究グループで、大学院音楽研究科、大学音楽学部に

所属する教員・卒業生を中心に組織されたオーケストラです。濱津清仁氏(2004年ウィーン

学友協会黄金ホールにて、オーストリア・ウィーン放送交響楽団を指揮し、鮮烈な楽壇デビューを飾り、将来を期待されている逸材と

して国内外で多くの交響楽団を指揮。現在は、後進の指導にも力を注いでいる）がオーケストラの指揮を執り、作品発表をはじめ、ソ

プラノ・ハイバリトン独唱、ピアノ・クラリネット独奏など各研究領域における熱演が繰り広げられました。

プロの歌手や演奏家に引けを取らないすばらしい歌唱力や堂々とした演奏に、客席を埋めた聴衆から盛大な拍手が送られていました。

音楽学部
アンサンブル・
フィラルモニク・ア・ヴァン
第15回定期演奏会が
開催されました

2014年2月24日(月)、江南市民文化会館大ホールで、アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン第15回定期演奏会が開催されました。アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァンとは、吹奏楽オーケストラを意味する言葉のとおり、吹奏楽によるブラスオーケストラの多彩な響き、ニュアンス豊かな表現をお届けする、本学の音楽学部学生による演奏会です。

第1部は、マーチングステージと学生による作曲・編曲作品の演奏が行われました。マーチングステージでは、1年生の学生たちがボディパーカッションに挑戦。昨年に続き楽器を持たないマーチン

グスタイルで、8ビートの「ロックトラップ」に合わせたステージングを披露。マイケル・ジャクソンのステージで有名になったムーンウォークなどにも果敢にチャレンジしました。続く作曲・編曲作品には4名の学生が登場。塚田隆雄さんはG. ガーシュウインの「アイガットリズム」、知念杏奈さんはG. ヴェルディの「椿姫」より乾杯の歌、片桐健輔さんはボーイソプラノ合唱団リベラのナンパーから「あなたがいるから」を編曲、指揮しました。最後を務めた蒔田裕也さんは、自ら作曲した吹奏楽のための「Stagnation」を指揮しました。

第2部は、本学の講師を務める小野川昭博氏と特別客員教授のヤン・ヴァンデルロースト氏を指揮に迎えて演奏が披露されました。小野川氏はヴァンデルロースト氏の作品「ヒューマノス」をはじめ、G. ヴェルディの「レクイエム」、C-M. シューンベルグの「レ・ミゼラブル」の3曲を演奏。続くヴァンデルロースト氏は、C. サン＝サーンスの「東洋と西洋」、C. ニールセンの「アラジン組曲」、自身



1 音楽学部特別客員教授ヤン・ヴァンデルロースト氏
2 作曲・編曲に挑戦した4名
3 観客の拍手に応える小野川昭博氏



の作品「ナマセラプソティ」の3曲を演奏しました。さらに、会場からの拍手に応えアンコール曲を1曲指揮。ヴァンデルロースト氏の迫力ある指揮に、観客から惜しめない拍手が贈られました。

め、G. ヴェルディの「レクイエム」、C-M. シューンベルグの「レ・ミゼラブル」の3曲を演奏。続くヴァンデルロースト氏は、C. サン＝サーンスの「東洋と西洋」、C. ニールセンの「アラジン組曲」、自身

音楽学部
第36回 オペラ公演
「小さな魔笛」が
上演されました

2014年3月8日(土)、三井住友海上しらかわホールで、本学の第36回オペラ公演が開催されました。演目の「小さな魔笛」は、モーツァルト作曲の「魔笛」を約半分の2時間弱に短縮し、子どもたちにも愉しめるオペラです。人間の真実を求める若者の教訓劇として、2010年の第32回公演以来の再演です。今回は夜の女王が現れる場面では月を、昼の王では太陽を、そして最後のフィナーレでは地球を舞台に照らすという象徴的な工夫がなされ、また大蛇から夜の女王に変身させるなど、随所に新しい演出がみられ、観客を楽しませてくれました。

今回の公演は、本学の総力を上げての上演で、総監督・演出を本学教授の澤脇達晴氏が、指揮を山田正丈氏が担当。音楽指導と振り付けは本学教員が担当しました。それから、衣装の一部はデザイン学部の学生が担当し、小道具はオペラ研究室が総出で取り組んだ、まさに手作りのオペラでした。

第一幕のあらすじは、岩山で大蛇に襲われ気を失ってしまった王

子タミーノは、夜の女王の侍女たちに助けられ、夜の女王から悪者ザラストロに捕らえられている女王の娘パミーナの救出を頼まれます。女王から魔法の笛を授かったタミーノは、同じく魔法の鈴を与えられた陽気な鳥刺しのパパゲーノをお供に、ザラストロの神殿に遣わせられます。神殿に向かう途中、タミーノは老人と出会い、ザラストロは悪者ではなく徳の高い人物であり、パミーナを夜の女王の邪悪な野望の犠牲とならないよう保護していることを聞かされます。神殿で離ればなれになってしまったタミーノとパパゲーノ。そのパパゲーノがザラストロに使えるモノスタスに襲われていたパミーナを助けます。2人の持つ魔法の笛と鈴の導きで、ついにタミーノとパミーナが対面し、お互いを運命の人だと感じます。そんなタミーノでしたが、ザラストロから、真の愛を手にするためには、3つの試練を乗り越えなければならぬことを告げられ「沈黙の試練」が始まります。

第二幕のあらすじは、勇敢に試練に立ち向かうタミーノ。そのことを知らされていないパミーナは、沈黙するタミーノに対して深い悲しみに暮れます。そんなパミーナでしたが、3人の童子に助けられ



1 モノスタス(中央)に捕まったパミーナ(右)とパパゲーノ
2 ザラストロ(中央)から試練が与えられる2人
3 娘パミーナにザラストロを殺すよう命じる非情な夜の女王
4 魔法の鈴の力でパパゲーノ(右)と恋人になれたパパゲーノ
5 試練をすべて乗り越えて結ばれる2人



立派に耐え抜きます。一方、恋人を得るための試練を受けていたパパゲーノは辛抱できず、試練から脱落しそうになります。こちらも3人の童女の助言で魔法の鈴を使い、若い娘パパゲーノと出会い恋人になります。思い通りにならず怒った夜の女王は、侍女たちと共に自らザラストロの神殿に攻め込もうとしますが、落雷を受けて闇

夜に落ちていきました。再会したタミーノとパミーナは、魔笛の力を借りながら残る2つの試練を乗り越えてめでたく結ばれます。

この講演は4年生の学生にとって最後の大きな舞台。その演者たちの熱のこもった演技と歌声に、ホールを埋めた聴衆から惜しめない拍手が送られました。

音楽学部

オリジナルミュージカル 「MYSTERIOUS DIVA ～幻の歌姫は短くも 美しく燃えつきて～」が 上演されました

2014年3月7日(金)、名古屋市青少年文化センターアートピアホールで、音楽学部が主催するミュージカルが上演されました。演目は「MYSTERIOUS DIVA ～幻の歌姫は短くも美しく燃えつきて～」。

これは、本学のオリジナル作品です。ストーリーは、ショービジネス界を、「人気絶頂のまま三十年前に引退していた幻の歌姫が復活する」というもので、引退した時の歌姫は四十九歳、噂が本当だとすると七十九歳の復活ということになります。

そんなMysteriousな復活の噂に、マスコミは勿論、復活の舞台に新作を用意しているというプロデューサーや、歌姫の生涯を伝記にしたいという作家、等々が翻弄される内容です。

ラストシーンは、歌姫の娘として登場しマスコミに対応していた二人の姉妹は、実は本当の娘ではなく、歌姫もすでにこの世の人ではなかったというものでした。

この不思議な物語の演出・脚本を手がけたのは、本学ミュージカルコース教授の森泉博行氏です。森泉氏はブロードウェイ作品の演出、シェイクスピア作品のミュージカル化など、多くの創作ミュージカルの作・演出を担当。更には、東宝、松竹、ジャニーズなどのステージを手がけています。その他にも、作曲、振付、演奏のすべてを、本学の教員や学生たちが担当



しています。

ミュージカルコース4年生の卒業公演でもあるこのステージを最高の舞台にしようと、出演キャストをはじめ、舞台スタッフ、演奏を務めた竹内雅一教授率いる名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの面々も全力で臨みました。カー

テンコールでは、ミュージカルコース4年生がステージに立ち、名古屋芸大生としての最後の歌とダンスを披露しました。会場を埋め尽くした観客からは、割れんばかりの拍手が彼女たち、スタッフたちに送られました。

人間発達学部

「春を呼ぶ 芸術フェスティバル」が 開催されました

2014年3月1日(土)、人間発達学部主催による恒例の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が開催されました。

このフェスティバルは、人間発達学部をこの春卒業する4年生と退任される先生方を送り、4月から入学する高校生を歓迎するとともに、地域の子どもたちを楽しんでいただくことを目的として、毎年、年度末のこの時期に開催され

ています。

プロデュースは学生実行委員の企画運営によるもので、子どもたちに芸術文化の楽しさを伝えるとともに、一緒に楽しめるように、学生たちが日ごろから授業やサークル、また、個人で研鑽を積んできた成果を発表する場となっています。

プログラムの前半は、合唱や独唱、ピアノ演奏、絵本の読み聞かせなど。後半は、サークル活動の成果として、吹奏楽部、リズム体操部、ダンス部、和太鼓部などの演奏が行われました。

熱演する学生や教員に会場から大きな拍手が送られていました。



1 みんなで歌いましょう(合唱) 2 ピアノ・ギター弾き語り
3 ダンスサークル部演技 4 和太鼓部の演奏

美術学部

横山豊蘭 「書道アート」公開授業 「春の書画会」が 開催されました

2014年1月25日(土)と1月31日(金)の両日にわたって、美術学部の専門選択科目「書道アート2」の公開授業として、春の書画会1・2が開催されました。

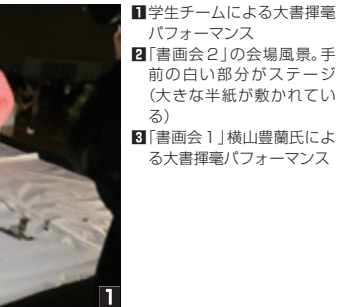
「書画会」は江戸時代寛政年間(1789-1801)から料理屋で行われるようになった催しで、料理屋に客を集めて専門家が書画を揮毫し、希望者に販売する会でした。当時の書画会は、期日の数ヶ月前から大きな看板を出して、当日揮毫する画家、書家などの名を宣伝し、その日は座敷の数ヶ所に毛せんを敷いた台を設け、画家や書家はそこで揮毫し、客たちは料理を

楽しみながら、気に入った書画を争って買い求める、といったものでした。

今回行われた書画会は、当時の書画会を現代的解釈にアレンジしたものです。25日の「書画会1」では、書道アート担当教員の横山豊蘭先生による大書揮毫が、学生への模範演技としてパフォーマンスされました。実際のパフォーマンスの流れ、演出のために機材の確認、また、学生の表現へのモチベーションを高めることを目的として行われました。

音・音楽・光・映像を一体化させ、暗い中で、ブラックライトと蛍光塗料を使用した書道パフォーマンスでした。

31日に行われた「書画会2」は、学生による大書揮毫で、書道アート2の授業でグループワークをしているチームごとに、自分たちで



1 学生チームによる大書揮毫パフォーマンス
2 「書画会2」の会場風景。手前の白い部分がステージ(大きな半紙が敷かれている)
3 「書画会1」横山豊蘭氏による大書揮毫パフォーマンス

企画した大書のパフォーマンスを披露しました。

広い会場にはステージが3つ用意されていて、厚手の半紙を何枚も張り合わせた大きな紙がセット

されていました。講師の横山豊蘭先生による説明と諸注意の後、早速、学生チームによる大書揮毫がスタートしました。第1ステージから順に開始され、第2ステージ

に移るとすぐに次のチームが第1ステージの準備に掛かるといった具合で、ほぼ連続して行われました。制限時間は15分以内で時間内に全てをやり終えないと失格となります。3~5人程度の人数で

構成されたチームは、それぞれお面を被ったり、大きな耳（兎のような）を付けたり、イメージに添った衣装を着たりして思考を凝らしたパフォーマンスを繰り広げました。照明を落とした薄暗い会

場の中で、自分達で選んだ音楽（音）と光（サーチライトや行灯など）、そして、大書（文字）が合体して浮かび上がる情景が随所に見られました。

この日の学生による発表は、午

前中が12チーム、午後が13チーム合計25チームが参加して盛大に行われました。各チームの発表内容は、チームワーク・演出・書の評価の3項目で審査されました。

美術学部 **デザイン学部**
美術学部コース展と
デザイン学部レビュー展が
行われました

2014年1月17日(金)から22日(水)まで、本学西キャンパスアート&デザインセンターのギャラリーで美術学部のコース展が開催されました。

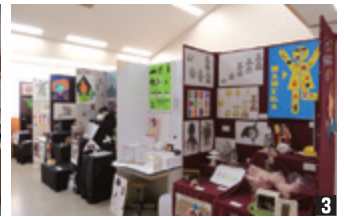
この展覧会は、美術学部各コースの教育活動の内容と成果を紹介するもので、こうした機会を通じて学生たちの作品を公開展示することにより、美術学部への理解を深めていただくことを目的としたものです。展示スペースの制約も

あって各コースからは選抜された作品が展示されました。

一方、デザイン学部では、恒例のデザインレビュー展が開催され、1月11日(土)・12日(日)と、18日(土)・19日(日)に一般公開されました。レビュー展は、デザイン学部の1年から3年生全員が、1年間の制作活動による全ての作品を、各個人ごとに指定されたスペースに展示・公開し、指導教員からの講評を受けることで、年間を通しての自らの取り組みを顧みるものです。西キャンパスの体育館の1・2階と、デザイン学部X棟の1階ギャラリーや3階の教室を使って展示公開されました。



1 美術学部コース展の展示風景
2 デザイン学部レビュー展の展示風景 (体育館)
3 レビュー展 (X棟3階)



これらの催しは、美術学部・デザイン学部にとって共に、一年間の教育内容とその成果を公開する

展覧会であり、期間中は、学生たちの友人や家族をはじめ大勢の来場者で賑わいました。

美術学部 **デザイン学部**
第41回 卒業制作展
—作品講評会・卒論発表・
映像作品上映会・記念講演会—

第41回目を迎えた本学の卒業制作展は、2月25日(火)~3月2日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で開催されました。初日の25日には愛知県美術館8階のギャラリーホール前で、オープニング式が開催され、美術・デザイン両学部の主催者からの挨拶と、来賓紹介や来賓を代表して学校法人名古屋自由学院理事長川村大介氏による挨拶、テープカットなどが行われました。

期間中各会場では、美術学部・デザイン学部のコースごとに、本学担当教員及びゲストの作家による作品の講評会が実施され、卒業作品をプレゼンテーションした学

生に対して、ゲストや担当教員から様々な批評やアドバイスが送られました。

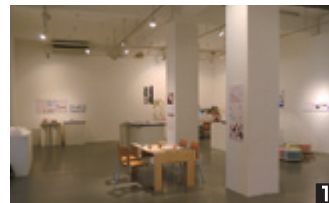
また期間中、美術館ギャラリーのホールでは、展示されている全コースの映像作品上映会が実施されました。ドキュメンタリー、CG映像、実写映像、アニメーション4分野で、上映時間は90分、一日5回ずつ上映されました。

3月1日(土)には、美術文化コースの優秀卒業論文発表会が愛知芸術文化センター 12階のアートスペースで行われました。

また、毎年開催されている記念講演会は、本年度は、東京藝術大学学長の宮田亮平氏と、聖心女子大学教授の仲居宏二氏の「明日のアート」と題した対談でした。宮田学長は、映像を使って日ごろのご自身の活動を紹介しながら、芸術に取り組む姿勢や考えを語ってくれました。

卒業制作展とその関連イベントには、本学関係者はもちろん、一般の来場者を含めて大勢の方々が

訪れ、学生たちの思いを込めた作品を鑑賞していました。



1 卒業制作展会場風景 (本学A&Dセンターギャラリー)
2 会場風景 (名古屋市市民ギャラリー矢田)
3 会場風景 (愛知県美術館)
4 作品講評会の様子 (愛知県美術館)
5 映像作品上映会の映像 (愛知県美術館)

Column NUA No.24

「芸術とは何か」という
問いをめぐって

人間発達学部教養部准教授 森田裕之

「芸術とは何か」という問いは、本学のような芸術大学に通う学生や、その学生の学びを多方面から支援する教職員にとって、個々に応答しなければならぬ原理的な問いであると考えられる。本コラムでは、この原理的な問いについて思考す

るための一つのヒントを、あのオランダの画家ファン・ゴッホの紆余曲折した人生を簡単に辿ることによって提示することを試みたい。

ファン・ゴッホは1853年3月30日にオランダ南部のフロート・ズンデルトに牧師の子として生まれた。中等学校中退後、画商の店員、語学教師、書店の店員、伝道師といくつかの職を転々とした末に、1880年画家となる決心をする。そうすると、ポリナーージュ、ブリュッセル、エッテン、ハーグ、ドレンテ、ニュネン、アントウエルベン、パリと

ちの版画や技術書に掲載されている素描を模倣し、ドラクロワの色彩を模倣し、当時の前衛であった印象派の技法を模倣することによって絵画を学んでいく。そして1888年2月、パリから南フランスのアルルに赴き、そこで突然、前例のない強烈な色彩とうねる筆触と大胆な構図とを確立するに至る。粘り強く繰り返し模倣しながら習作を続けてきた凡庸な画家が突如として、単なる模倣を脱し、『ひまわり』『星月夜』『カラスのいる麦畑』といった瞠目すべき絵画を描き上げることができた芸術家になったのである。

第18回大学院 美術研究科・デザイン研究科 修了制作展が行われました

第18回の本学大学院美術研究科及びデザイン研究科の修了制作展が、3月4日(火)～3月9日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催されました。

この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

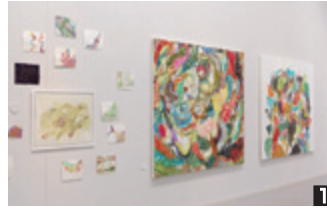
美術研究科美術専攻は、絵画、造形、同時代表現、美術文化の4領域を備え、広い知識と深い思考に導かれた自己の確立と、その表現方法の探究を教育・研究の目標として掲げています。会場には、現時点における彼らの集大成とし

ての自己表現の作品が展示されました。

デザイン研究科デザイン専攻は、学士課程でのデザイン教育を踏まえて、より専門的職能に携わるための知識と技能の習得をめざし、広域なフィールドで次代のデザインをリードできる人を育成することを目標にしています。

研究領域は、ヴィジュアルデザイン研究、メディアデザイン研究、ライフスタイルデザイン研究、3Dデザイン研究、クラフトデザイン研究の5領域で、在籍専攻生の感性と専門分野の知識に裏付けられて表現された作品が展示されました。

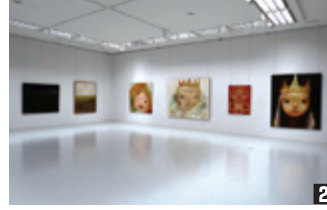
見ごたえのある作品が展示された会場では、期間中、大勢の関係者が訪れて熱心に鑑賞していました。



1



4



2



5



3



6

1123 美術研究科展示作品

4156 デザイン研究科展示作品

名古屋芸術大学グループ

「たきこ幼児園」が 開園しました



園長 武石協子さん

2014年4月、名古屋芸術大学グループ校の一員として、社会福祉法人NUA たきこ幼児園(保育園)が、本学滝子キャンパスに開園しました。幼児園の名称は、本学の滝子幼稚園が開園した当初、「滝子幼児園」であったことから、創立者の意向を受け継いで命名されました。

この幼児園は0歳から5歳までの乳幼児の保育と、本学の保育者養成機関の実習を目的として開園されたものです。総定員は90名で、0歳児9名、1歳児15名、2歳児16名、

3歳児16名、4歳児以上34名となっています。本年度は0歳から3歳までを主として60名でのスタートとなりました。

開所時間は朝7時30分から夜の19時30分までですが、保育時間は保護者の勤務時間や家庭の状況により、開所時間の範囲内で相談の上決められます。

園の特色について、園長の武石協子さんにお伺いしました。

スタッフは園長以下12名でクラスのリーダーはいずれも保育経験の豊かな人々です。園のコンセプトは、①子どもの幸せと健全な発達を最優先に考えること、②子どもと保護者、職員のみならず、地域の人々も含めた「ファミリー」として支えあいの子育てを実践すること、③異年齢保育で育ち学ぶ体験を大切にすること、④同キャンパスにある保育・福祉専門学校の学生が日常的に出入りし、子どもたちの発達の様子を体験的に学ぶこと、とのことです。

園舎の建造でのこだわりは、子どもたちの足に感触が良く、衝撃

の少ない柔らかいヒノキを使った床を作ったこと。もちろん、床暖房も設置してあります。園庭には、「ビワ」や「みかん」などの実のなる木を植樹。また、井戸を掘り、蝶や昆虫、虫などが集まり、自然体験できるように配慮しているそ

うです。

4月に開園したばかりの新しい保育園ですが、スタッフ一同張り切って保育に努めています。今後の発展が期待されます。

たきこ幼児園へのアクセス、お問い合わせは以下の通りです。

アクセス	地下鉄鶴舞線「荒畑」駅下車、3番出口より南へ650m 地下鉄桜通線「桜山」駅下車、8番出口より北西へ800m
住所	名古屋市昭和区永金町1-1-32
問い合わせ先	052-882-0467
休園日	日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
開所時間	7時30分～19時30分まで(土曜日は16時まで)



1 正面玄関から見た園舎全景
2 園庭に植えられたビワやみかんの木
3 0歳児保育室
4 ヒノキを使ったやさしい床



2



3



4

しかし、こうして芸術家になったファン・ゴッホは1888年12月23日、あの有名な「耳切り事件」を起こすことになる。共同生活をしていたゴーギャンとの激しい口論の末に、ファン・ゴッホは自分の左耳の下半分をかみそりで切り落とし、なじみの娼婦のもとに届けたのだ。この翌日、病院に収容されたファン・ゴッホは、異常な興奮状態に陥り、妄想と幻聴に襲われる。その後、1889年5月にアルルに近いサン＝レミの療養院に移りその監視下で作画し、さらに1890年5月にパリ郊外のオーヴェール＝シュール＝オワーズに

転地し、ガシエ医師のもとで療養と作画を行う。だが、同年7月27日、麦畑の近くで拳銃による自殺を試み、その二日後に息をひきとる。

以上のようにファン・ゴッホの人生を振り返ってみると、芸術と狂気のあいだに何か強い紐帯のようなものが存在しているように思えてくる。ファン・ゴッホだけでなくニーチェ、カフカ、芥川龍之介、アルトーといった卓越した芸術家の人生のなかに典型的に見られるように、芸術と狂気が不可分に結びついているとするならば、芸術家になることは、単に絵画を上手に描いたり音楽を

巧みに演奏したりする技術的能力を人間として身につけることなどではなく、人間を超出し、もはや人間と呼ぶことのできない狂気に憑かれた何ものかに生成変化することだと考えられないだろうか。芸術家になることは、人間という存在そのものに関わる変容であると言えないだろうか。このとき、芸術というものを、人間として必要な諸能力の獲得としての人間化には還元することのできない超人間化というベクトルのもとで捉える可能性が生まれるだろう。



マスター ↑↓to アーティスト

【第24回】



＜ブルースをさがして＞

ダニー・ シュエッケンディック

(Donny Schwekendiek) 音楽学部教授

1955年 アメリカ、ジョージア州アトランタ生まれ
 1974年 ジョージア州立大学
 1977年 サン・マテオ大学
 1979年 UCB(カリフォルニア大学 パークレー校)応用物理学専攻
 1982年 レイニー・カレッジ(GENERAL MUSIC STUDIES)
 サンフランシスコにてジャズピアニストとしてプロデビュー
 ベイ・エリアで活躍するボーカリストFaye Carol(フェイ・キャロル)の
 バンドメンバーに

サンフランシスコ・ベイエリアで活躍するシンガー、Faye Carol (フェイ・キャロル) のバンドのオーディションで採用され、プロのピアニストになった。経験も少なく、未熟だったダニーにかけられた言葉が「私のレパートリーのすべての曲にはブルースがある。私のバックを演奏するのに必要なのは、楽曲の中にあるブルースを探して、音を出すこと。それがあなたの仕事……」

夕食後、毎晩、ピアノやギターでセッションを楽しむことが当たり前の、音楽に親しむ家庭に育った。1963年のヒット曲、ザ・サファリーズのワイプアウト (The Surfaris, Wipe Out) の印象的なドラムを真似てタンバリンを叩いたのが8歳のとき。両親は、すぐに子供用のドラムセットを買い与えた。少年は、

ピアノではなく、ドラマーとして音楽を楽しむ、聴くようになったという。ビルボードでビートルズがチャートを席卷するのが64年、翌65年にローリングストーンズのサティスファクションがNo.1ヒットとなるのだが、少年の心を熱くしたのは、その後の70年代、プログレッシブ・ロックだった。イエス、キングクリムゾン、エマーソン・レイク・アンド・パーマー、ジャネシス……、アメリカの南部の町で英国のバンド、しかもヒットチャートを賑わすようなものではなく、実験的な先鋭的な音楽に夢中になっていたというから、ちょっと背伸びした大人っぽい考えの10代だったのだろう。しかし、プログレが、ジャズやブルースの影響を受けているといっても、まだ、ピンと来るものはなかった。

最初の転機は、16歳の時、レコードショップで訪れる。リリースされたばかりのマッコイ・ターナーのアルバム「サハラ」(McCoy Tyner, Sahara) を手に取った時の衝撃だった。



マッコイ・ターナーの「サハラ」1曲目「Ebony Queen」を最初の課題曲に全て独学で練習開始。

超絶的な技巧と怒濤のごとく押し寄せるビート感。このとき初めてピアノという楽器を意識した。幸運は続く、翌年、アトランタの街に1軒だけあったライブハウスにマッコイ・ターナーが出演するという。小さなライブハウスのわずか数メートルという距離で、演奏を見た。ピアノ



"Tennessee Waltz"
by Donny schwekendiek:
"keepin' the swing" recording



"the in crowd"
by Donny schwekendiek TRIO
@ CABALLERO CLUB



"Born to be blue"
by Donny schwekendiek TRIO
@ CABALLERO CLUB



"I Left My Heart in San Francisco"
by Donny Schwekendiek
@ The Wiz



1st CD
keepin' the swing
2009.10.9

<http://www.donny-jazz.com/>



今の学生は、人前で演奏する機会がたくさんあります。それはとても素晴らしいこと。僕なんか、26歳でデビューするまで人前で演奏したことないヨ。

- 1984年 コンコード・ジャズ・フェスティバル出演
 - 1985年 ドイツツアー
 - 1988年 初来日、以降、国内で演奏する機会が増え、一旦はサンフランシスコに戻るも機会を見て来日
 - 1994年～ ヤマハでジャズピアノ講師
 - 2001年～ 本学音楽学部ジャズ・ポップスコース講師
- アメリカでは、アニタ・オデイ、ミルト・ジャクソンらと、国内ではケイコリー、八神純子など多数のボーカリストと共演

から目が離せない。力強いプレイスタイルに圧倒された。1週間の公演のうち、3回も足を運んだ。そして、それからアルバム「サハラ」の1曲目「Ebony Queen」をコピーしたいと、ピアノを練習するようになった。

ドラムとピアノに熱くなるも、大人っぽい考えを持っていたダニーは、醒めた青年になっていた。何故か音楽は趣味として一線を置き、自分の職業にしようとは思っていなかった。高校を卒業後、働きながら名門ジョージア州立大学へ進学、20歳になるとさらに物理学を学びたいとカリフォルニア大学で応用物理学を学んでいた。勉学に励むものの、音楽は常に傍にあった。アパートでは、ドラムの練習はできないため、電子ピアノが拠り所となった。時には部屋を借りてピアノを

練習することもあったという。しかし、応用物理学とピアノが両立は簡単ではない。カリフォルニア大学で学び始めて2年目のある日、学費が不足し、電子ピアノを売ってしまう。部屋から楽器がなくなったときに、初めてその存在の大きさに気が付いた。「何を考えているんだ僕は、物理のために楽器がない、これは間違いだ！」音楽の道に進みたいという自分の本心がはっきりした。そして、大学を辞めた。「音楽の道に挑戦しなければ、一生後悔する」音楽に向き合った時にはすでに25歳。レイニー・カレッジに入り直し、ピアノに明け暮れ、1年後にはプロとしてデビューすることになる。

オーディションで採用されたものの、ブルースのことはよく分かっていなかった。ブルースは、アメリカ南部、黒人の

労働歌から発展した音楽。悲しみ、嘆き、怒り、すすり泣き、これらが無い交ぜになった感情を、音楽的に言えば、音程を下げられた音階と特徴的なフレーズで表したもの。ブルーノート・ペンタトニック・スケールと呼ばれる「ド-ミb-ファ-ソ-シb」の5音階でブルースは成り立っている。ブルースさがしが始まった。そして気が付いた。今まで聞いてきた音楽には、すべてにブルーノートが混ざっていた。プログレにも、ジャズにも、ジミ・ヘンドリックスにも、キングクリムゾンにも。意識していなかったが、ブルースを耳にしていたのだ。自分の深いところまで知らず知らずのうちに入り込んでいたのだと気が付いた。目が覚めたような思いだった。「今でも、トリハダが立ちますヨ！」感動と情熱は、今も広がり続けている。

出版

教員著作(翻訳)の
出版物のご紹介です。
(編集期限までに報告されたもの)



加藤智也

(名古屋芸術大学人間発達学部
教養部会准教授) 共著

『Webシステムの開発技術と
活用方法 19』
(共出版)



舟橋三十子

(名古屋芸術大学音楽学部
音楽文化創造学科教授) 著

『名曲で学ぶ音楽の基礎 II』
楽典ソルフェージュから音楽史まで
(音楽之友社)



アート&デザインセンター 2014年度展覧会スケジュール(予定)

4/ 1(火)~ 4/16(水)	2013年度デザイン学部レビュー選抜展
4/18(金)~ 4/23(水)	シャバラゲ
4/18(金)~ 4/23(水)	Accessible
4/25(金)~ 5/ 7(水)	写真部 春の展覧会
5/ 9(金)~ 5/14(水)	名古屋芸術大学 美術・デザイン学部OB・OG展 前半
5/ 9(金)~ 5/14(水)	Milano Salone project 2014
5/ 9(金)~ 5/14(水)	仮:人と人
5/16(金)~ 5/21(水)	名古屋芸術大学 美術・デザイン学部OB・OG展 後半
5/16(金)~ 5/21(水)	komekami(仮)
5/16(金)~ 5/21(水)	「五月病」展
5/23(金)~ 5/28(水)	peace nine2014
5/23(金)~ 5/28(水)	版画コース・コレクション展
5/30(金)~ 6/ 4(水)	創作折紙作品展
5/30(金)~ 6/ 4(水)	第5回神戸コレクション展
5/30(金)~ 6/ 4(水)	少女(仮)
6/ 6(金)~ 6/11(水)	From Denmark 2014 展
6/13(金)~ 6/18(水)	名古屋芸術大学 教員展
6/20(金)~ 6/25(水)	洋画1コース3年展
6/27(金)~ 7/ 2(水)	名古屋芸術大学 デザイン学部助手展(仮)
7/ 4(金)~ 7/ 9(水)	Preparation 展
7/11(金)~ 7/16(水)	2014年度前期留学生作品展
7/18(金)~ 7/23(水)	スペースデザインコース コース展「くうねるところにすむところ」展
7/18(金)~ 7/23(水)	メディアデザイン研究科展
7/18(金)~ 7/23(水)	No Reason:Have Result 展
7/25(土)~ 8/ 6(水)	素材展(メタル&ジュエリーコース・テキスタイルデザインコース前期制作展)
9/19(金)~ 9/24(水)	彫刻展
9/26(金)~10/ 1(水)	美術学部前期終了学生作品選抜展
10/ 3(金)~10/ 8(水)	書道アート作品展(仮称)
10/ 3(金)~10/ 8(水)	名古屋芸術大学大学院 洋画制作2014
10/10(金)~10/15(水)	「幼稚園児たちのゲイジツ」展
10/10(金)~10/15(水)	「Hand Hospeace ; 医療と美術 2014」展
10/17(金)~10/29(金)	2014年度企画展 デザイン学部特別客員教授展
10/31(金)~11/ 5(水)	アール・ラジオ&大学院同時代表現制作展
11/ 7(金)~11/19(水)	2014年度企画展 SHOBU STYLE~工房しょうぶの仕事~
11/21(金)~11/26(水)	MCD デパートメント
11/28(金)~12/ 3(水)	Media Live/メディアデザインコース展
12/ 5(金)~12/10(水)	美術学部 洋画2コース選抜展(仮称)
12/ 5(金)~12/10(水)	ラスト・プレバ展
12/12(金)~12/17(水)	こどもの空間 絵本と椅子
12/12(金)~12/17(水)	2014年度後期留学生作品展
12/19(金)~12/24(水)	ガラス・陶芸コース 2・3年生合同展覧会
1/ 9(金)~ 1/14(水)	日本画3年作品展
1/ 9(金)~ 1/14(水)	漫研展覧会(仮)
1/16(金)~ 1/21(水)	美術学部コース展



2014年度 オープンキャンパス日程

2014年

- 6月14日(土) 全学部
10:00~16:00
- 7月19日(土) 人間発達学部
10:00~13:30
- 7月20日(日) 美術学部・デザイン学部
10:00~16:00
- 8月23日(土) 人間発達学部
10:00~13:30
- 9月27日(土) 全学部
10:00~16:00
- 10月26日(日) ミニオープンキャンパス(芸大祭と同時開催)
10:00~16:00

2015年

- 3月 7日(土) 音楽学部
10:00~16:00

表紙の写真

片岡 祐司 副学長
(デザイン学部教授)



スズキ株式会社時代に
手がけた作品、「スイフト」、
「ラバン」とともに。
スイフトは、普段教授の奥
様がお使いのこと。ラバン
はデザイン学部助手の方の
愛車。どちらの車も発売され
てから10年近くになるが、古さを感じさせない。ま
れいに扱われていることもそうだが、何よりもオー
ナーの笑顔が車への愛着を感じさせる。

(2014年3月11日 西キャンパス X棟)

発行：名古屋芸術大学
企画・編集：全学広報誌編集委員会
デザイン・協力：くまな工房一社
印刷：株式会社クックス
発行日：2014年4月24日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



大学基準協会の認定評価を 再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の
大学基準に適合と認定され、認定
評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018
年3月までです。これにより、法令化さ
れている「第三者による認定評価」に
も合格したことになります。